

震災語り部シンポに420人

気仙沼の元消防士ら登壇

南三陸

「全国被災地語り部シンポジウム」が24、25日、南三陸町の南三陸ホテル観洋で行われた。

若者への教訓の継承や津波の爪痕を残す震災遺構などの重要性を伝えようと、16年に同町で始まった。今

年で5回目を迎え、東日本大震災や阪神大震災の語り部ら約420人が参加した。

25日に行われた「語り部事例発表」では、気仙沼市の元消防士、佐藤誠悦さん(67)が登壇。震災後に視察に訪れた米テキサス州のベイラー大との交流や、津波で亡くなった妻・厚子さん(当時58歳)との思い出を語り、「命ある限り伝え続けることが私の使命だと思う」と締めた。

2日間に及ぶプログラムの最後には、「命を守るため、次世代や第二の語り部育成に努める」などとした「全国被災地語り部 南三

語り部活動の重要性について語る佐藤さん

(25日、南三陸町で)

陸宣言」が発表された。岩手県釜石市の高校3年生高橋奈那さん(18)は「県外の高校生と情報共有でき、参考になった。大学に進学したら震災伝承について勉強したい」と話していた。

2020年2月26日(水曜日)

【讀賣新聞】